



## 提言2 観光/地域資源を最大限に生かした観光振興

### ◆憩い・交流拠点施設『たのうらら』の整備について

西部海岸地区の魅力さをさらに高め、観光客の増加など、新たな活力を呼び込むための「憩い・交流拠点施設」を整備することにより、観光における本市の玄関口としての機能の確保による賑わいの創出と周遊の促進を図ることを目指しています。



「たのうらら」ロゴマーク

### ★整備の進捗状況について

令和元年度7月に策定された基本計画に基づいて「おおいたの魅力を“体感・発見・繋ぐ”賑わいと交流の拠点施設」として、情報コーナーや物販、飲食施設、休憩施設、歴史コーナーを整備する方針で事業が進められています。令和3年度に事業者との契約が締結され、令和4年度は、施設の設計を行いました。また事業を進めるにあたって、施設の名称、ロゴマークについても、市民の方から広く案を募りました。

### ★施設名について

公募で寄せられた1,971件の中から、選考委員会により5作品を選定。その後、市民投票を行いその結果名称を「たのうらら」と決定しました。

### ★ロゴマークについて

「たのうらら」の名称決定後、募集を行い、選考委員会によって、「麗かな田の浦」を表現した上記ロゴマークが選定されました。

### ★今後の整備予定について

建物については、令和5年4月より工事、令和6年5月の運用開始を予定しています。また、併せて、駐車場と屋外トイレの工事を国土交通省がおこなっていきます。



北西からの「たのうらら」外観（完成予定図）



「たのうらら」内に整備が予定される「おとの聴こえる広場」



「たのうらら」完成後の鳥瞰図（予定）

## ◆大分西部地域まちづくりビジョンについて

### ◎大分西部地域が目指すまちの将来 「自然と文化が共存 心躍る西部タウン」

<将来像実現に向けた4つの提言>

- 提言1 暮らし/住み続けたい地域、住んでみたい地域づくり
- 提言2 観光/地域資源を最大限に生かした観光振興
- 提言3 教育・スポーツ/豊かな自然環境での教育、スポーツ交流の推進
- 提言4 防災/巨大地震の発生に伴う津波への備え

## ◆提言に基づく事業の概要

番号	事業名	概要
1	顔の見えるまちづくり事業	西部地区総合安全対策推進協議会や住吉川浄化対策推進協議会など、日頃から「顔の見える」取組を地域主体となて行うことで、防災訓練や各行事などにおいて連携・協力できる体制を整える。
2	子育て応援事業	放課後児童の居場所づくりとして、児童館を設置するほか、地域における子育て応援体制の充実や子どもの遊び場の確保を図る。
3	老人会を元気にする事業	まだまだ元気な高齢者に対して、老人会への加入を促進し、地域の様々な取組に参画してもらうことで、老人会、そして地域の活性化につなげる。
4	買い物弱者支援事業	狹隘道路や傾斜面が多い地域において、高齢者等の買い物弱者の支援策として、乗合タクシーや移動販売等を実施する。
5	郊外型の住宅地開発事業	子育て世代等の呼び込みを図るため、白木、田ノ浦地区等において、空き家の有効活用や市街化調整区域の見直しを検討することで、海が見える抜群のロケーションを生かした住宅地開発につなげる。
6	若年層の雇用活性化事業	少子高齢化や人口減少が進む中、地域で育った若者が流出しないよう、本地域の魅力でもある観光産業などによる雇用の創出を図る。
7	鉄道残存駅の活用事業	日豊本線の鉄道残存駅の活用として、地域住民が利用できる憩いの場とするともに、観光拠点とJR大分駅を結ぶ移動空間とする。
8	柞原八幡宮を核とした歴史観光PR事業	柞原八幡宮などの神社仏閣がもつ魅力を観光資源として発信することで、ラグビーワールドカップなどの国際大会で訪れた外国人観光客の誘客を図る。
9	西大分地区商店街再生事業	地域、商店街、行政等がアイデアを出し合い、今の古い街並みを生かしながら、西大分が観光の始発点となるよう整備する。
10	西大分を拠点とした学びと遊びの創出事業	西大分を巡るウォーキングやサイクリングなどのイベント開催や、海の魅力を生かした体験型観光のメニューをつくる。また、田ノ浦地区に市内外からの誘客を図れるような魅力的な施設をつくる。
11	外国船を呼び込む港づくり	かんたん港国付近に外国船を呼び込むことで、観光の新たな目玉とするともに、周辺の観光施設との相乗効果を図る。
12	心豊かな子どもを育てる自然・海洋教育事業	田ノ浦ビーチや祝川などの豊かな自然環境を生かした環境教育や海洋教育を推進することで、青少年の健全育成を図るとともに、次世代にも今の素晴らしい環境を引き継いでもらう。
13	スポーツ交流事業	市営駒原総合運動公園の整備に続き、西部スポーツ交流ひろばについても、地域のスポーツ交流拠点となるよう整備する。
14	別大国道に防災拠点となる立体駐車場整備事業	別府湾に面している観光施設や別大国道の利用者の津波避難場所として、立体駐車場を設置する。平常時は、観光客の駐車場としての利用や展示場としての活用を図る。
15	行政と話す場づくり事業	地域ビジョン会議のような、地域と行政が話し合う場をつくることで、地域の意向や民間事業者のノウハウ等をまちづくりに生かしてもらう。

### ◆今後の取り組み

大分西部地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「私ができること」、「地域でできること」を中心に、それぞれ取組状況を報告し、課題や今後の事業の進め方などについて、次年度以降も順次、情報共有や意見交換などを行っていきます。

■本回覧物は「大分市ホームページ」にも掲載しています。【問い合わせ先】大分西部公民館（TEL）543-4938